



認知症を知る～認知症の症状って?～

認知症は、早期の発見や治療・適切なケアによって、進行を緩やかにしたり改善できる場合があります。

しかし、本人は自覚できないことが多く、周囲も「まさか」と思いがちなため、気づかれにくかったり、発見が遅れてしまったりすることもあります。今回は認知症の症状について、その特徴を学んでおきましょう。



Hello!



福祉

多久市地域包括支援センター
(福祉課内)

問 75-6033

多久市地域包括支援センター（おたっしや本舗多久）は高齢者のみなさんが、いつまでも元気で安心して暮らせるように、あらゆる面から応援する総合相談機関です。

認知症の中核症状と行動・心理症状

認知症になると、「中核症状」と「行動・心理症状（周辺症状）-BPSD」の2つの症状が現れます。認知症には5月号でも紹介したように、様々な種類がありますが、「中核症状」は脳細胞の減少が原因であり、どの種類にも、その人にも多かれ少なかれ現れる症状です。また、ごく初期の段階でも見られ、治療や適切なケアによって進行を遅らせることができます。

一方で、「行動・心理症状（周辺症状）」は「中核症状」の進行と、周囲とのかかわりあいによってもたらされる症状です。治療や周囲の適切な接し方（ケア）やよい環境の整備に努めることで発生を抑えられることもあります。

脳の機能の低下



最近もの忘れが増えたなあ

中核症状

記憶障害	ついさっきのことを忘れる
判断力の障害	考えるスピードが遅くなったり、的確な判断ができなくなる
見当識障害	時間や場所、人物を正しく認識できなくなる
失語	ものの名前が出てこなくなる
失行	着替えや排泄などが自力でできなくなる
実行機能障害	料理などができなくなる

家はどっち!?



行動・心理症状

暴言・暴力行為、徘徊、幻覚、妄想、興奮、睡眠障害、不安、うつ状態、焦燥、異食（食べ物以外を口に入れる）、過食、失禁、不潔行為、多弁、多動など様々な症状が現れる。



「中核症状」に気づいたら、本人の気持ちを理解し、できる限り早期の治療や適切なケアを行うことが、「行動・心理症状」の発生や重度化を抑えるポイントです。

「中核症状」に対する不安やあせり、心身の不調、本人の性格、周囲の適切でない対応などが複雑に影響し合う。

あせり・不安
周囲の対応



➡次回は軽度認知障害（MCI）についてお知らせします。